

令和4（2022）年度

徳島大学大学院医学研究科（修士課程）

秋季入学（第2次）学生募集要項

（社会人入学を含む）

徳 島 大 学

令和4(2022)年度 徳島大学大学院医学研究科修士課程 秋季入学(第2次)学生募集要項

■アドミッション・ポリシー

【全学】

徳島大学は、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、卓越した学術および文化を継承するとともに学びの志と進取の気風をもち、未来へ飛躍する人材を養成するため、課題に対し自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求めています。

○博士前期課程及び修士課程

- ・ 専門的知識と論理的思考を備え、明確な問題意識をもって研究を進める能力に加え、専門的な職業に従事できる高度な能力を修得しようとする人
- ・ 多様な情報を的確に把握し、自らの自由な発想でその真偽と活用を判断し、高い倫理観・責任感を身につけ、自立して行動しようとする人
- ・ 世界水準を目指す研究成果の発信により、地域を発展させる産業創出又は医療の深化・発展のために貢献しようとする人

【医学研究科】

医学研究科修士課程では、その理念、目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、卓越した学術および文化を継承するとともに学びの志と進取の気風をもち、未来へ飛躍する人材を養成するため、課題に対し自ら積極的に取り組む主体性、社会の多様性を理解できる能力、協働性をもった次のような人を求めています。

●求める人物像

- ・ 最新の医学・生命医科学・医療に関する知識と技術を学ぶ熱意と能力を有する人
- ・ 医学・生命医科学・医療の研究を遂行するための生命倫理を尊重できる人

【修士課程／医科学専攻／修士（医科学）】

医科学専攻では、医学科以外の出身者に医学に関する幅広い知識とともに先端的医科学の教育を行い、多様な背景をもつ医学関連分野の指導的職業人や医学関連分野で博士課程に進学する者を育成することを目的としています。このような目的に基づき、つぎのような人を求めています。

●求める人物像

（知識・技能、関心・意欲）

- ・ 生命科学の専門知識と論理的思考力を持ち、医学上の未解決の問題を解決すべく意欲と情熱を持って取り組むことができる人

（思考力・判断力・表現力等の能力）

- ・ 生命倫理を尊重し、論理的思考、的確な判断力と正しい実験方法・調査方法によって医学上の課題に解答を与えることができる人

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ・ 世界水準を目指す研究成果を発信し、医学の発展のために貢献しようとする人

●入学者選抜の基本方針

- ・ 個別学力試験では、英語の読解力・表現力及び専門分野に関する知識・技能を評価します。
- ・ 面接では、出願書類を参考に、その内容に関連する事項について質疑応答を行い、主として知識技能、関心・意欲、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性を総合して評価します。

（社会人入試）そのほかに、社会人大学院生としての志望動機、大学院修了後のビジョンについても評価します。

I 募集人員

医科学専攻	定員10人	今回募集人員1名（社会人を含む）
-------	-------	------------------

（備考）本研究科では、社会人の就学に特別な配慮を行うため「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、教育上特別の必要があると認められる場合は離職することなく、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行います。

II 出願資格

入学を志願することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条第1項に定める大学を卒業した者及び令和4年9月30日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者及び令和4年9月30日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年9月30日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和4年9月30日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了した者及び令和4年9月30日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和4年9月30日までに修了見込みの者
- (7) 学校教育法施行規則第155条第1項第6号の規定に基づき、文部科学大臣が指定した者
- (8) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び修了見込みの者
- (9) 大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (10) 本研究科において、個別の入学資格審査により、第1号に規定する者と同等以上の学力があると認めた者で、令和4年10月1日までに22歳に達する者

注) 上記資格の(9)、(10)により出願する者は、本研究科において事前に以下の個別の審査により、出願を認めるかどうかを判定するので、この要項の6頁、7頁に記載の所定の書類を期限内に提出してください。

- ① 出願資格の(9)により出願する者の資格審査
所定の単位を優れた成績をもって修得しているかどうかを提出された書類により審査し資格を判定します。
- ② 出願資格の(10)により出願する者（短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校等の卒業生、修了者等）の資格審査
大学を卒業した者と同等以上の学力があるかどうかを、提出された書類により審査し資格を判定します。

III 出願期間と受付場所

- 1 出願期間 令和4年8月9日(火)から8月10日(水)、8月17日(水)から8月19日(金)
(土・日曜日を除く)

2 受付場所 〒770-8503

徳島市蔵本町3丁目18番地の15

徳島大学蔵本事務部医学部学務課第一教務係医学研究科担当

電話(088)633-9649

受付時間は、毎日9時から17時まで。郵送・持参とも8月19日(金)17時までに必着のこと。

注) 安全保障輸出管理について

徳島大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「徳島大学安全保障輸出管理規則」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から学生の受入れに関して、厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合があります。願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。

詳細については以下の研究支援・産官学連携センターのホームページを参照してください。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/active/ip/yusyutsukanri/>

IV 出願手続

1 提出書類等

入 学 願 書	所定の用紙に必要事項を記入したもの（最近撮影した正面、脱帽、上半身縦4cm、横3cmの写真をはること。）
受 験 票	所定の用紙に必要事項を記入したもの（最近撮影した正面、脱帽、上半身縦4cm、横3cmの写真をはること。）
志 願 理 由 書	所定の用紙に必要事項を記入したもの
履 歴 書	所定の用紙に必要事項を記入したもの
卒業(見込)証明書等	卒業・修了(見込)証明書 出願資格(2)に該当する者については、独立行政法人大学評価・学位授与機構が発行した学士の学位授与証明書を添付すること。
成 績 証 明 書	出身大学(学部)長が作成した成績証明書
検定料払込証明書	検定料30,000円 検定料を郵便振込の後、受領した「検定料払込証明書(出願用)」を「検定料払込証明書」(本学所定の様式)に貼って提出すること。 なお、海外在住の志願者については、クレジットカード(VISA, JCB, Master Card, AMERICAN EXPRESS等)又は中国銀聯カードによる払い込みが可能です。海外からの出願方法等については「X 徳島大学留学生ポータル」を参照ください。
受 験 承 認 書	現在大学院に在学中の者及び官公庁、会社等に在職中の者は、所定の用紙により、その所属長が作成したもの
住 民 票 の 写 し	本邦に在留する外国人は、住民票の写しを添付すること。
返 信 用 封 筒	長3形封筒に94円切手をはり、自己の住所・氏名・郵便番号を明記したもの(願書を直接持参する者は不要)

あ て 名 票	本要項に添付の所定用紙に郵便番号，住所，氏名を明記してください。
---------	----------------------------------

2 手続

- (1) 入学志願者は，出願手続に必要な書類を取りそろえ，出願期間内に提出してください。
- (2) 上記提出書類を郵送する場合は，「書留」とし，封筒に「大学院医学研究科修士課程入学願書在中」と朱書きしてください。
- (3) 出願資格の(9)，(10)により出願する者は，この要項の6頁，7頁に記載の所定の書類を期限内に提出し，事前に個別の審査を受けてください。

V 入 試 方 法

入学者の選抜は、学力検査、面接の結果及び成績証明書を総合して判定します。

1 学力検査等

- (1) 検査科目 外国語（英語）と小論文による筆記試験及び面接
- (2) 日 時 令和4年8月26日（金） 9時から

外国語（英語）	小 論 文	面 接
9：00～10：30	11：00～12：00	13：00～

- (3) 場 所 徳島大学大学院医学研究科 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

2 成績証明書 出身大学（学部）長が作成した成績証明書を審査し、選抜判定の資料とします。

VI 障がいのある入学志願者について

本研究科に入学を志願する者で、障がいのある者は、受験上及び修学上の配慮を必要とすることがありますので令和4年8月2日（火）までに蔵本事務部医学部学務課第一教務係医学研究科担当まで申し出てください。

なお、上記以外の者で配慮を必要とする者もあらかじめ本研究科に相談してください。

VII 合 格 者 発 表

合格者の発表は、令和4年9月12日（月）午前9時に医学部掲示場に掲示、徳島大学医学部のHPに掲載するとともに、合格者には、本人宛文書により、通知します。

なお、電話による合否についての照会には応じません。

VIII 入 学 手 続

入学手続期間及び入学手続の詳細については、合格通知時に通知します。

IX 入 学 料 ・ 授 業 料

- 1 入 学 料 282,000円〔予定額〕
- 2 授 業 料 後期分 267,900円〔予定額〕
 - (1) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。
 - (2) 入学料及び授業料は現行の金額であり、改定されれば改定額が適用されます。

X 徳島大学留学生ポータル

徳島大学ホームページに、外国に住んでいて徳島大学へ留学を希望している方のために開設した「徳島大学留学生ポータル」サイトがあります。

学部・大学院の概要、教員・研究者紹介、入学までの手続、各種奨学金、留学生宿舍、就職・進路などを説明しています。徳島大学を知るための参考としてください。

徳島大学留学生ポータル (<http://www.tokushima-u.ac.jp/isc/admission/>)

XI そ の 他

- 1 入学願書受付後は、提出した書類の変更及び検定料の払い戻しはできません。
- 2 その他の経費（医学部後援会費等）として、入学手続きの際に約29,000円が必要です。本学及び本学部出身者は一部不要な経費があります。
- 3 募集要項を郵便で請求するときは、250円切手をはった自己あて（住所・氏名・郵便番号明記）の返信用封筒（角2封筒33.2cm×24.0cm）を同封の上、本学蔵本事務部医学部学務課第一教務係医学研究科担当へ申し込みしてください。（請求の際は「医学研究科（修士課程）学生募集要項請求」と明記してください。）
- 4 医学研究科修士課程に入学後、その課程を修了し引き続き本学医学研究科博士課程に進学を希

望する者は、博士課程の入学試験を受験し合格しないと進学できません。

- 5 出願手続き等に質問があれば、82円切手をはった自己あて（住所・氏名・郵便番号明記）の返信用封筒を同封の上、本学蔵本事務部医学部学務課第一教務係医学研究科担当へ照会してください。

出願資格(9)により出願する者の資格審査について

- 1 大学に3年以上在学し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (1) 提出書類
 - ① 出願資格審査願（本研究科所定の用紙）
 - ② 在学証明書
 - ③ 在籍大学の学業成績証明書（最新の学業成績が記載された証明書で厳封したもの）
 - ④ 在籍の大学学部・学科の履修要覧（要項等）
 - ⑤ 在籍大学の受験承認書（本研究科所定の用紙）
 - (2) 書類の提出期限及び提出先
 - ① 提出期限 令和4年8月2日(火)
 - ② 提出先 徳島大学蔵本事務部医学部学務課第一教務係医学研究科担当

- 2 外国において学校教育における15年の課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者
 - (1) 提出書類
 - ① 出願資格審査願（本研究科所定の用紙）
 - ② 履歴書（本研究科所定の用紙）
 - ③ 最終出身大学の修了証明書
 - ④ 最終出身大学の学業成績証明書（厳封したもの）
 - ⑤ 推薦書（本研究科所定の用紙に、在籍大学の学科主任、指導教員等が記載し厳封したもの）
 - ⑥ 志願理由書（本研究科所定の用紙）
 - (2) 書類の提出期限及び提出先
 - ① 提出期限 令和4年8月2日(火)
 - ② 提出先 徳島大学蔵本事務部医学部学務課第一教務係医学研究科担当

- 3 資格審査結果の発表
令和4年8月5日(金)付けで本人宛に通知します。

- 4 その他
審査の結果、出願資格が〔有〕と判定された者は、この要項の3頁のⅢ出願期間と受付場所及びⅣ出願手続により、期間内に手続きしてください。
なお、出願書類のうち、すでに資格審査で提出している書類は不要です。

出願資格(10)により出願する者の資格審査について

- ・本研究科において、個別の入学資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和4年10月1日までに22歳に達する者
- ・その他本研究科において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

1 提出書類

- ① 出願資格審査願（本研究科所定の用紙）
- ② 履歴書（本研究科所定の用紙）
- ③ 最終学校の卒業又は修了証明書及び授業内容を記した資料
- ④ 最終学校の学業成績証明書（厳封したもの）
- ⑤ 履歴に教育機関等での教育・研究歴等を有する者にあつては、以下の関係書類を添付すること。
教育又は研究歴証明書（本研究科所定の用紙に、所属の長等が証明したもの）
教育又は研究実績調書（本研究科所定の用紙に、本人が記載したもの）
教育又は研究成果報告書（本研究科所定の用紙に、本人が記載したもの）
- ⑥ 業績として学術論文、著書、研究発表等を有する者にあつては、その関係書類の写しを添付すること。

2 書類の提出期限及び提出先

- ① 提出期限 令和4年8月2日(火)
- ② 提出先 徳島大学蔵本事務部医学部学務課第一教務係医学研究科担当

3 資格審査結果の発表

令和4年8月5日(金)付けで本人宛に通知します。

4 その他

審査の結果、出願資格が〔有〕と判定された者は、この要項の3頁のⅢ出願期間と受付場所及びⅣ出願手続により、期間内に手続きしてください。

なお、出願書類のうち、すでに資格審査で提出している書類は不要です。

徳島大学大学院医学研究科医科学専攻修士課程の授業科目の概要

授 業 科 目 名	講 義 等 の 概 要
生 命 倫 理 概 論	<p>バイオサイエンスおよび医療に従事する者は、人権、生命倫理に十分な配慮を行い、個人情報保護、実験動物愛護にも同じく目を向けなければならない。本授業は生命倫理に関わる基本的知識を修得することを目的としている。</p> <p>生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護などの問題に日頃接することの多い講師が経験に基づいた講義をオムニバス方式で行う。</p>
臨 床 心 理 学	<p>心と身体は密接につながっている。したがって、「心の問題」の理解と予測・制御を扱う臨床心理学の基礎の習得は、精神医学・心身医学領域のみならず、あらゆる医学領域において重要であろう。本講義では、まず臨床心理学の定義、対象、方法（代表的な心理検査、心理療法）、心身相関の様態、次いで、有効性・科学性という点で、臨床心理学の世界的趨勢となりつつあるエビデンスベーストな臨床心理学の代表、認知行動療法の理論と実際を概説する。</p>
社会医学・疫学・医学 統 計 概 論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 介入試験（薬物治療等を行いその効果を検証する試験）の設計、評価法について、効果判定の決め手になることの多い無作為比較試験を中心に概説する。 2. 専門分化の時代から機能的な統合の時代に入った医療において、大学病院と地域連携のためのITの役割をシステム開発事例や実演などを用いて解説する。また、病院経営の実情と今後の対応（人的な仕組みを含む）におけるIT化戦略について概説する。 3. 日本における学校給食、食事摂取基準の制定、国民栄養調査などの行政的な取り組みとそれが国民の栄養改善・健康増進に及ぼす影響などについて解説する。アフリカ、アジア諸国のタンパク質・エネルギー欠乏症、貧血、ヨード欠乏症などの実態と取り組みについて成功と失敗を紹介する。また、米国の肥満問題などの背景について考える。 4. 口腔疾患について、発生要因の追求や疾病対策の効果判定に関する事例をまじえながら教授し、科学的根拠に基づいた口腔疾患の予防法を概説する。 5. 患者の権利として要求される医療（医薬品）情報開示・提供に際しての情報管理の在り方や医薬品の安全対策とリスクマネジメントの具体論等を概説する。 6. 多くの薬害事例を紹介し、それらの発生要因や背景を考慮して薬害を如何に防止するかを考える。
英 語 論 文 作 成 法	<p>研究成果を国際的な学術雑誌に発表したり、海外の学会やシンポジウムで発表や講演をしたりすることは、研究者養成を目的とする大学院教育において必須の履修目標である。</p> <p>そこで、本授業では医学英語論文、要旨の作成方法について系統的な講義をビデオ並びにマルチメディア教材等を積極的に活用しながら行う。更に、医科学用英語の聴き取り及び英語による討論の訓練を行い、発表技術の向上を目指す。</p>
宇宙と栄養・医学概論	<p>JAXAを含め、世界中のAgenciesが、火星を含めた有人宇宙探査に乗り出している。宇宙飛行士の宇宙での安全な活動を担保するためには、「食」を中心とした宇宙栄養学、「薬」を中心とした宇宙医学の進歩が必須である。さらに、無重力による骨量減少や筋萎縮などの有人宇宙開発における健康上の問題点は、超高齢社会である我が国の医療上の問題点と非常に良く似ている。本授業を通して、有人宇宙開発や超高齢社会の問題点を知るとともに、その解決力を身につけて欲しい。受講者のなかから、国際宇宙ステーションや月面基地で宇宙研究（実験）を行う研究者が生まれることを切に望んでいる。</p>
生命科学の研究手法	<p>実験動物の取り扱い方、細胞と器官の培養方法とその応用、蛋白質の取り扱い方とその解析方法、遺伝子解析の方法とその応用、抗体を用いた研究方法とその蛋白質、免疫組織細胞化学に対する応用、数理モデルによる生体機能発現機構の解明等生命科学の基礎的な研究技法を講義する。</p>
ヒューマンサイエンス (形態と機能)	<p>生体を構成する組織や器官の構造と働きを理解するため、基本的な生体物質と細胞についての講義をし、細胞レベルから見たからだの働きと疾患との関連を理解することを目的とする。</p>
臨床薬理学概論	<p>人々の病気の治療・予防に多大の役割を担っている薬物をより有効に、かつ安全に使うために、薬物の人体における作用と生体内動態に影響を及ぼす諸因子について解説し、モデル式を利用した科学的評価に基づく薬物療法について講義する。また、有用な医薬品として期待されるDDS製剤の最近の動向と医薬品開発における臨床試験方法について解説する。</p>
プロテオミクス概論	<p>ポストゲノム時代における医学、生物学に重要な位置を占めるプロテオミクスの基礎を習得する。遺伝子産物である蛋白質がどのように相互作用して生命活動を制御するかを理解する手段としてのプロテオミクスの理論、解析法、応用例を体系的に講義する。</p>

授 業 科 目 名	講 義 等 の 内 容
ゲノム創薬特論	「ゲノムの塩基配列」と「マイクロサテライトと単一ヌクレオチド多型を含む多型情報」が明らかにされている。ゲノム多型情報を用いて単一遺伝子疾患の原因遺伝子と多遺伝子性疾患の疾患感受性遺伝子とその多型を明らかにできる。これらの情報に基づく「ゲノム創薬」について講義する。
医療系分野における知的財産学概論	まず、知的財産制度全般の重要事項について解説することにより全体像の理解を深める。次に、バイオ・医薬分野の知財に特徴的な事項を研究開発や医療行為と関連させて説明する。適宜、医療、医薬品、食品等と関連した具体的な事例を紹介することで理解を深める。
生命科学コミュニケーション特論	科学コミュニケーションのツールとしての英語を講義の視聴、プレゼンテーション、議論などを通じてよりうまく使いこなすようになること目的に授業を行う。
ヒューマンサイエンス（病理病態学）	進行性変化，退行性変化，循環傷害，腫瘍，炎症，感染症，免疫など病気の原因と発生機序について，また，細菌，ウイルス，寄生虫など微生物学の基礎知識について，分子レベルで理解できるように教育するとともに，細胞レベル，臓器レベル，個体レベルの変化と関連させることを目的とした講義を行う。
臨床医学概論	循環器，呼吸器，消化器，腎臓，神経・筋，内分泌・代謝，血液の各臨床領域における代表的な疾患につき，発症機序および原因となる遺伝子などの異常，そして各々の疾患の病態生理を健常者と対比させつつ講義を行う。また最新の診断および治療法の理論と実践にも触れる。
ゲノム医科学概論	ゲノムの構造と機能を基盤とした生命科学および医学について教授する。
メディカルサイエンス基本実習	メディカルサイエンスを学ぶために必要な基本的知識と手技を，分子細胞生物学，生理・生化学分野，およびゲノム科学について，実際の実験を通して学ぶ。なお，学習内容については，指導教員が学生の習得している専門知識・技能や修士論文のテーマ，進路希望等を勘案して，3研究分野（分子細胞生物分野，生理・生化学分野，ゲノム科学分野）からそれぞれ1人の教員の実習を指定する。
プロテオミクス医科学特論	タンパク質の多様性が生み出される分子機構と，疾患においてどのようにその機構が変化／破綻するかを解説し，実際の研究法を幾つかの例をあげて説明する。病態に伴い動態が変化するタンパク質群を探索同定するための研究法とこのようなプロテオーム解析を通して得られた知見の新たな診断法や新薬開発への応用について講義する。
応用分子酵素学・病態学特論	最初に蛋白質と酵素の機能解析の基礎理論について修得し，これらの知識を基に，病気の原因，治療法，予防法の解明の実際例について学ぶ。講義では最新の情報を可能な限り取り入れた講義を行う。
メディカルエレクトロニクス特論	バイオメディカル研究者，医療従事者として必要な電気電子機器の活用法，情報処理解析法，機器分析法についての基本的な知識と医学応用について講義する。
ナノテクノロジー医療応用特論	近年のナノテクノロジーの進歩を背景として，この技術を医療応用するための基礎知識，臨床検査上の現状と問題点を講義すると共に，実際の医療応用例を示して基礎研究と実用化のプロセスを学ぶ。
医療遺伝学特論	人類遺伝学の基礎的な知識を修得し，臨床的な応用，遺伝カウンセリングについて学習する。英語の臨床遺伝学の本を選定し輪読会形式で読み進む。各学生が，予習と説明を担当する。
発生・分化・再生医学特論	生体の発生・分化についての基礎知識を習得し，それに基づく再生医療の可能性について理解する。発生現象の基礎とその分子機構および細胞分化の基礎とその分子機構について習得する。また，胚性培養細胞等を用いた再生医療について理解する。
課題探求演習	ヘルスサイエンス領域の世界をリードする最先端研究の成果を学修して，課題探求能力の開発と，独創的な発想力並びに研究プロジェクト推進能力を養成する。最新の内外の代表的学術論文を学生に抄読させ，作業仮説の構築とその実証過程について学修する。研究計画の立案方法および研究実施方法とその結果に関して，学生による発表討論を行い，課題探求能力開発と研究推進能力育成を目的とした総括的な指導を行う。さらに，病態の解明と治療薬開発をめざす医科学研究の戦略を考察する。
メディカルサイエンス特別研究	講義・実習で習得した知識，実験手法などを実際に研究の場でどう生かせるかを試行することを目的とする。指導教員は研究課題を設定させ，研究計画の作成，実験の進め方，実験手法の習熟，データの整理・解釈を指導して，研究成果を修士論文としてまとめさせる。

徳島大学大学院医学研究科教育研究分野名等一覧

(医科学専攻)

(令和4年7月)

教育研究分野名	教 員 名 等		教育研究分野名	教 員 名 等	
機能解剖学	教授	富田江一	消化器・移植外科学	教授	島田光生
小児科学	教授	漆原真樹	心臓血管外科学	教授	秦 広樹
産科婦人科学	教授	岩佐 武	泌尿器科学	教授	金山博臣
細胞生物学	教授	米村重信	循環器内科学	教授	佐田政隆
消化器内科学	教授	高山哲治	疾患病理学	教授	常山幸一
予防医学	教授	有澤孝吉	放射線医学	教授	原田雅史
公衆衛生学	教授	森岡 久尚	呼吸器・膠原病内科学	教授	西岡安彦
総合診療医学	教授	谷 憲治	胸部・内分泌・腫瘍外科学	教授	滝沢宏光
生体防御医学	教授	安友康二	法 医 学	教授	西村明儒
微生物病原学	教授	野間口雅子	皮膚科学	教授	久保宜明
顕微解剖学	教授	鶴尾吉宏	運動機能外科学	教授	西良浩一
生 理 学	教授	勢井宏義	形成外科学	教授	橋本一郎
精神医学	教授	沼田周助	生 化 学	教授	佐々木卓也
脳神経外科学	教授	高木 康志	血液・内分泌代謝内科学	教授	安倍正博
生体機能学	教授	親泊政一		教授	福本誠二(※)
医療情報学	教授	廣瀬 隼	遺伝情報医学	教授	森野豊之
薬 理 学	教授	池田 康将	ゲノム遺伝情報学	教授	峯岸克行
麻酔・疼痛治療医学	教授	田中克哉	ゲノム医科学	教授	片桐豊雅
腎臓内科学	教授	脇野 修	糖 尿 病 学	教授	松久 宗英
救急集中治療医学	教授	大藤 純	細胞情報学	教授	小迫 英尊
臨床薬理学	教授	石澤啓介	分子生命科学	教授	齋尾智英
眼 科 学	教授	三田村佳典	動物資源研究	教授	松本高広
耳鼻咽喉科学	教授	(選考中)	免疫情報医学	教授	松本 満
臨床神経科学	教授	和泉唯信	生体情報統御学	教授	坂口 末廣
分子病理学	教授	(選考中)			

※担当教授（分野に属して大学院生の指導を行うことができる。学位授与に関しては、分野に一人の主任教授が責任を持つ。）